

HIYOSHI CAMPUS CALENDAR

JUNE 2006

2006.6.1. 発行 第99号

慶應義塾大学(日吉)HIYOSHI CAMPUS CALENDAR 編集部(日吉キャンパス事務センター運営サービス内)編集・発行

入学歓迎行事

小松原庸子講演会

小松原庸子氏による講演およびフラメンコダンスの実演

日時: 6月21日(水) 16:30~18:00

場所: 来往舎イベントテラス

環境週間

パネルディスカッションや展示講演会などのイベントを開催し環境問題への関心を喚起する

日時: 6月12日(月)~6月17日(土)

場所: 日吉キャンパス

4ページに関連記事があります

モーツァルト・フェスティバル モーツァルト生誕250年記念企画
フェスティバル形式のポジティブ・オルガンとフォルテピアノの演奏会 全4回

6月開催日程

第1回 大塚直哉ポジティブ・オルガンリサイタル

日時: 6月22日(木) 18:15~

場所: 来往舎イベントテラス

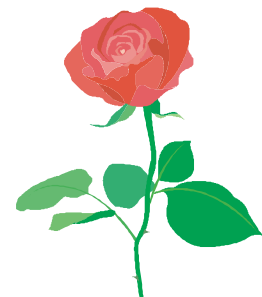
第2回 上尾直毅フォルテピアノリサイタル

日時: 6月30日(金) 18:15~

場所: 来往舎シンポジウムスペース

問合せ: 日吉音楽研究室(045-566-1359)

主催: 慶應義塾大学教養研究センター日吉行事企画委員会(HAPP)



入場無料

日吉キャンパス情報

日吉メディアセンター（図書館）

【企画展示】

～没後 500 年 クリストファー・コロンブス～

コロンブスの知られざる生涯を彼の航海の様子を中心に、コロンブス以前のアメリカ大陸発見説とともにご紹介します。

期間：5月2日(火)～6月9日(金)

場所：図書館 1階展示ケース

～環境週間 汚染・環境技術～

身近な汚染、面白い環境技術について考えてみませんか？

読んでためになる本を紹介します！！

6月13日(火)5限後にビデオの上映会を予定しています。

期間：6月12日(月)～7月7日(金)

場所：図書館 1階展示ケース

【データベース NAXOS Music Library 導入のお知らせ】

NAXOS レーベルを中心に、クラシックをはじめとした 9400

タイトル以上の音源をストリーミングで提供するサービスです。

音楽之友社『新編 音楽中辞典』のコンテンツも利用できます。

日吉メディアセンターWeb ページよりアクセスしてください。

http://www.hc.lib.keio.ac.jp/dLib/list_keio.html

同時アクセス数に制限があるため、利用を終了した時には必ず「ログアウト」ボタンを押してください。

キャリア発達支援検査 結果シート配布日程

配布場所：日吉学生相談室

配布時間：9:30～16:45

6/12(月) 経・医

6/13(火) 商・理

6/14(水) 法

6/15(木) 経・医

6/16(金) 商・理

6/19(月) 法

6/20(火) 経・医

6/21(水) 商・理

6/22(木) 法

6/23(金) 経・医

6/26(月) 商・理

6/27(火) 法

6/28(水) 経・医・商・理・

法

6/29(木) 経・医・商・理・

法

問合せ：日吉学生相談室

TEL：045-566-1027

学生相談室企画 グループアワー

「心」を訪ねてぶらり旅

カウンセラーからのメッセージ 2006 part 1

「ディスカッションの仕方について、話しませんか」

話題提供者 西河正行 学生相談室カウンセラー

日時：6月5日(月) 18:00～20:00

場所：日吉・第4校舎A棟1階J412番教室

参加費：無料

申込方法：日吉学生相談室まで連絡して下さい。資料を配布します。

問合せ：日吉学生相談室 (TEL：045-566-1027)



『「ボラ学」 & “ふるサポ” 夏ボランティア体験！』説明会

慶應義塾大学「ボランティア学ってなに！」と横浜市港北区「港北ふるさとサポート」の協働・連携新規事業です。慶應義塾創立150年を見据え、慶應義塾大学と地域との“温もりある関係”を築いていく第一歩として、「ボラ学」が協働する「ふるサポ」の市民活動でボランティア体験を行います。

日時：6月1・2日(木・金) 12:20～12:50

場所：日吉・第4校舎A棟1階J413番教室

共催：横浜市港北区

両日とも、同一内容・時間・場所

問合せ：学生総合センター窓口 担当：篠塚・嘉悦・内海

(TEL：045-566-1025、MAIL：k-volunteer@adst.keio.ac.jp)

「教養のための連続映画上映会 2006」 映画はスターで始まる 女優編

主催：慶應義塾大学表象文化論研究会

協力：IVC、コムストック、角川ヘラルド映画、イマジカ、ハピネット・ピクチャーズ

映画にとって欠かせないファクターである俳優。なかでもスター女優の存在は映画にとってもっとも重要な要素となってきました。たとえばハリウッド映画の歴史を振り返るとき、産業としてのハリウッドを支えてきたのは、スタジオの期待を一身に集めたスター女優/男優だったことが、次第に明らかになってきています。そしてまたハリウッド以外の諸外国・フランスやスペインや日本でも、スター女優/男優の存在は、映画の成否を決定するほどの大きな影響力をもってきたのです。スター＝俳優にフォーカスして映画を見直してみたいと思います。

日時：各回 18:15～

場所：来往舎シンポジウムスペース

* 入場無料。事前申込不要。上映前・後にレクチャー有。

6月7日(水) 『CURE キュア』(1997年 / 日本映画 / カラー / 111分)

監督・脚本：黒沢清 / 音楽：ゲイリー芦屋 / 撮影：喜久村徳章 / 出演：役所広司、萩原聖人、うじきつよし、中川安奈、洞口依子

マインドコントロールと猟奇殺人事件をめぐって展開する黒沢清監督戦慄のサイコ・スリラー。刑事・高部の妻が精神を病んでいるなど、黒沢監督が張りめぐらしたディテイルと、そして恐怖演出の卓抜さ!

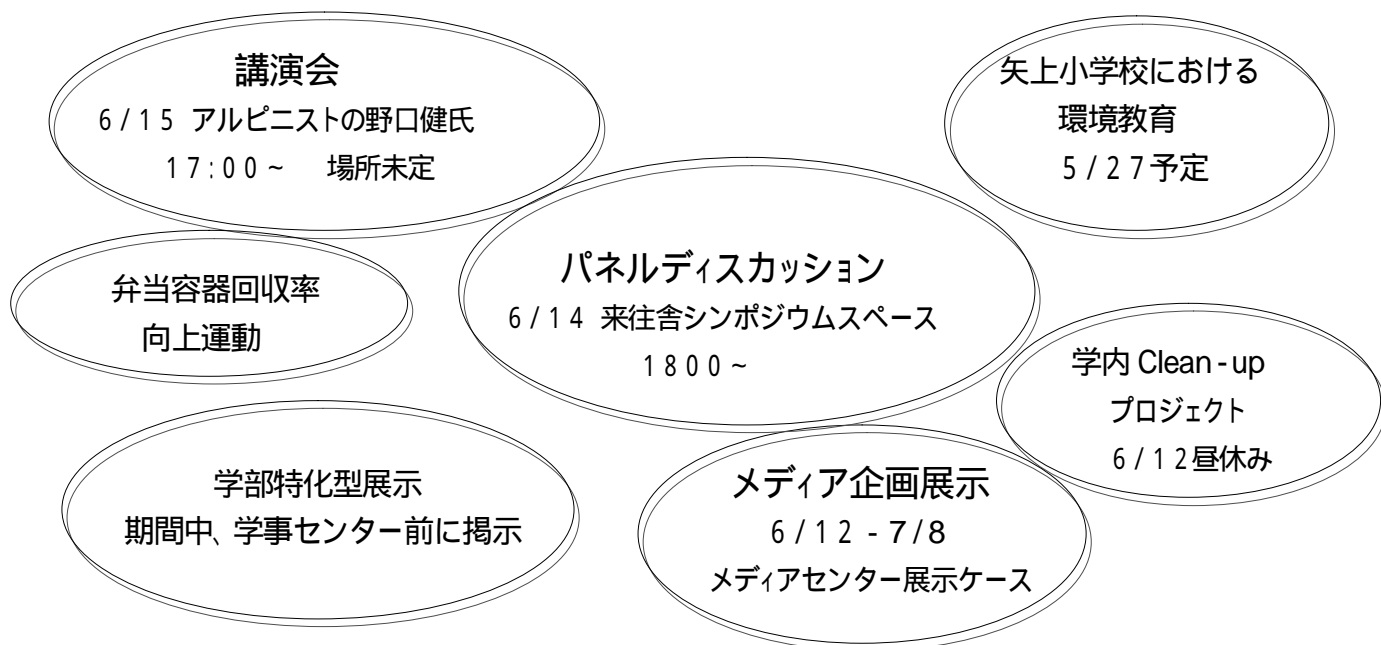
6月21日(水) 『ビバ! マリア』 VIVA MARIA! (1965年 / フランス映画 / カラー / 119分)

監督：ルイ・マル / 脚本：ルイ・マル、ジャン=クロード・カリエール / 音楽：ジョルジュ・ドルリュウ / 撮影：アンリ・ドカエ / 出演：ジャンヌ・モロー、ブリジット・バルドー、ジョージ・ハミルトン

ふたりのマリアを演じるのは、当時のフランス映画界を代表する2大スター、ジャンヌ・モローとブリジット・バルドー。ふたりのスター女優の競演が映画になにをもたらしたのか、なにをもたらさなかったのか。それにもまして理屈ぬきに楽しめる美女競演!

慶應義塾大学環境週間 2006 -環境週間とは?-

慶應義塾大学では、国連が6月を環境月間として定めていることにちなんで、6月のうちの1週間を「環境週間」とし、日吉キャンパスにおいて環境に関する企画を一齐に開催しています。「週間から習慣へ」をキーワードに、キャンパスを利用する人々に環境への興味を持ってもらうことが大きな目的の一つです。2002年より始まった当企画は今回で5回目の開催となります。今年の環境週間は、6月12日～6月17日にかけて開催される予定です。



開催日程：6月12日(月)～6月17日(土)

主催：慶應義塾大学教養研究センター日吉行事企画委員会 (HAPP)

協力：慶應義塾大学環境サークルE.C.O.

詳細は <http://ecoweek.keioeco.net/> をご覧ください

2006年度慶應義塾大学極東証券寄附講座『生命の教養学』 特別公開講座 “生きている”をみつめ “生きる”を考える 生命誌の視点から

講師：中村桂子(JT 生命誌研究館 館長)

東京都出身 1964年東京大学大学院生物化学専攻修了 理学博士 三菱化成生命科学研究所 早稲田大学人間科学部教授 大阪大学連携大学院教授等 1993年より【生命誌館】を立ち上げ、2002年から現職 『生命誌の研究館』『あなたのなかのDNA』『生命誌の扉をひらく』『生き物感覚で生きる』『自己創出する生命 普遍と個の物語』(毎日出版文化賞受賞)『ゲノムが語る生命』などの著者、編書、翻訳、監訳書多数

日時：6月9日(金) 17:30～19:30

場所：来往舎シンポジウムスペース

中村桂子さんから一言：

生き物の魅力を解明する生命科学の進展が生命を大切にしない社会につながるのにはなぜだろう。DNAを遺伝子に還元せずの一つの細胞、一つの個体を支えるゲノムという切り口で見る『生命誌』と生命についての研究をさまざまな形で表現する『研究館』を見つけてから15年。いま、動詞で考える面白さを感じています。『生命』では思考停止になる。“生きている”と“生きる”から新しい世界観が生まれました。

(生命誌研究館についてはURL <http://www.brh.co.jp>をご覧ください)

学生・教職員および一般の皆様のご来聴をお待ちします。(事前申込み不要)

主催：慶應義塾大学教養研究センター